

先日、新入生オリエンテーションで「水煙会」を紹介させて頂いた、会長の長崎です。激烈な倍率の中を勝ち抜いて、無事横浜国大理工学部建築・都市・環境学コースに入学された皆様へ、改めてお祝いを申し上げます。誠にありがとうございます。

皆様方は日本の大学入試と言う最難関の試練を勝ち抜いてこられた勝者と思っております。確かに「横浜で建築を学べる」と言う事は野球で言えば「甲子園に出場」したようなもので、ある意味でここからは日本一を目指す事になります。地方レベルの予戦を勝ち抜き、本格的な決戦に挑戦して行くわけですが、ここまで努力を積み重ねてきた皆様は、その挑戦に十分耐えられるだけの素養や能力をお持ちであると自信を持って下さい。

昨年のこの会で当時の新入生の皆様に入學のお祝いに『ノーブリス・オブリージュ』と言う言葉を差し上げました。今年の皆様にもこの言葉を差し上げたいと思っておりますが、何方かこの言葉の意味をご存じの方はいらっしゃいますか？

もしかしたら、コミック誌などでも扱われていますので、ご存じではないかと思っておりますが、いわゆる原点は『貴族たるものそれにふさわしい振舞いをすべきである』というのがその意味になります。ですからヨーロッパなどでは貴族の子弟に戦死者が多いという結果が出てくる事になるわけです。ただ今の日本においては「人に先んじて戦争に行く」と言うのは聊か当てはまりません。ですから、この言葉は『能力ある者は社会の為にやらねばならぬ義務がある』と訳して載せたいと考えております。

特に建築を創ると言う事は大変な資金、資材、時間を投入していきますので、そこには雇用の創出や経済的な効果だけでなく、地域の資産あるいは歴史的な文化財といった価値が創造される事になるわけです。そしてその時には皆様方は其の纏め役を果たさなければならなくなります。当然、色々な利害関係が複雑に絡み合う事も多々あり、その解決策を纏め役の皆様はその事が纏わりついて来ます。是非そのような時にこの『ノーブリス・オブリージュ』と言う言葉を思いだして下さい。

皆様方はこれまでの努力で既に能力ある者となっているのですから、ここでさらにその能力に磨きをかけ、社会的責任は自分のやるべき事と心得、まさにこれからの日本の建築界のリーダーとして活躍して戴く事を心より祈念申し上げ、お祝いと開会のあいさつと致します。